



★★教材「キウイフルーツのたなの下で」(善悪の判断・自律)★★★★★★

～3年1組道徳：村中孝至先生～

この教材の主人公、まり子さんは、キウイフルーツが大きくなっても甘くおいしくなるにはまだ何ヶ月かかかることを知っています。6年生の男子が大きくなったキウイフルーツをとろうとしているのをじっと見ていたので、6年生がにらみながら「6年生のキウイの棚だから、取るのは勝手じゃないか」と言われ、本当は「今とっても固くて食べられないですよ」と言い返したかったのにできなかったというのがお話の核心部です。

村中先生は、その場面を役割演技させました。ペアになり、片方は6年生役、もう一方はまり子さん役になります。6年生は相手をにらみながら言葉を言う。まり子さんは実際には言い返せなかったのですが、目をそらして小声で「固くて食べられませんよ」と言うなどの細かな状況説明をして、交互に行わせました。どのペアも、多少照れながらも一生懸命にやってみました。



先生「演技してみて、まり子さんはどんな気持ちになったか言ってみてください。」

Aさん「こわい。」 Bさん「(6年生に)言い返されそう。」

先生「その後、まり子さんは『もやもや』しているとありますね。これはなぜ？」

Cさん「言いたいことを言い返せなかった。」 Dさん「だめって言えなかった。」

先生「言いたかったことって何？」

Eさん「まだ固くて食べられないよってこと。」

先生「固くて食べられないって間違っていること？」

何人か「正しいこと」とつぶやく。

先生「そうか、だからもやもやしているんだね。正しいことをなぜ言えなかったの？」

Fさん「6年生がこわかった。」 Gさん「にらまれたから。」 Hさん「きつく言われたから。」

先生「言うには何が必要かな？」

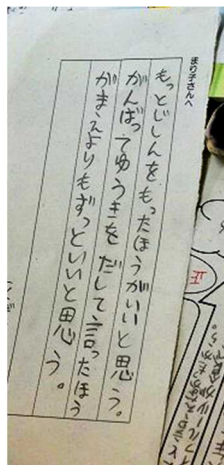
Iさん「言うゆうき(勇気)」



村中先生は、これら意見を黒板に類型化してまとめていきます。「言いたかったけど言えなかった。」を中心として、右側に「固くて食べられない。」＝『正しいこと』を強調して書きます。左側に「6年生がこわい。」「にらまれた。」などが書かれ、『言うゆうき(勇気)』を強調して書きます。そしてその下に、『もやもや』を雲形の枠の中に書きます。まり子さんの心の中の様子がよく分かります。

先生「では、そんな『もやもや』しているまり子さんに、お手紙を書いてあげよう。」というと、

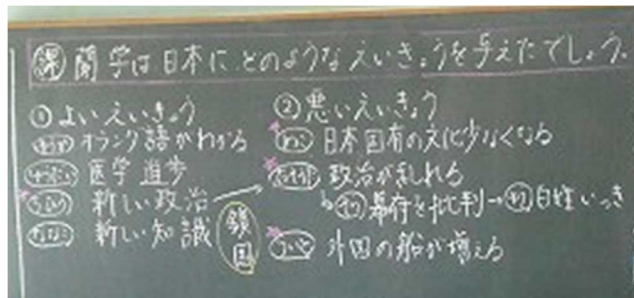
「まり子ちゃんのいえない気持ちも分かるけど、自信をもって自分の気持ちを伝えられるゆうきももちなよ。そんなのに負けないで。」「正しいことを言うのだから、ゆうきを出して行ってください。」「ゆうきを出して正しいことを教えてあげてね！わたしも言えないことがあります。なのでわたしといっしょにがんばろうね。そうしたらスッキリするからね。」「まり子さん、6年生がこわかったね。『まだかたくて食べられないわ』といおうとしたまり子さんもいいことだよ。」等々、まり子さんに自我関与しながら、人間の弱さも理解し、でも正しいことは貫く「自律」という道徳的な価値を自分なりに考え、道徳的な判断力を一人一人が少しでも高められた授業でした。何人かが「あー、今日の道徳、楽しかった。」と話しながら休み時間に入っていました。



★★**学習課題**『蘭学』は日本の発展につながったのか?』★★★★★★★★★★

～6年1組社会：三枝佑輔先生～

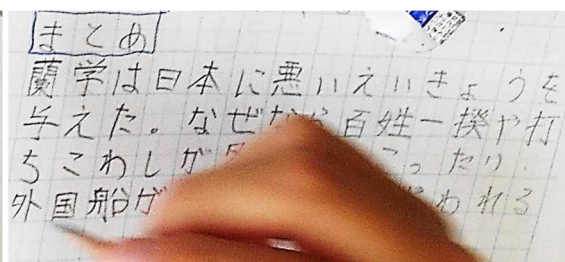
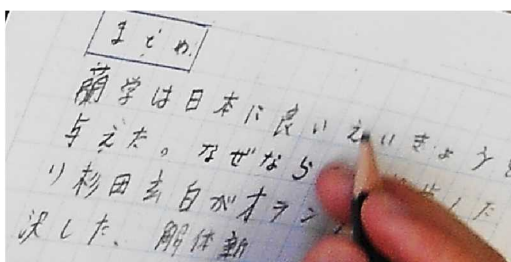
9月6日(金)、10日(火)の6年生の社会科では、『蘭学』について学んでいました。「蘭学は、日本にどのような影響を与えたでしょう」という課題に対して、予め調べておいたことを根拠に話し合いました。代表する意見は下の写真のとおりです。



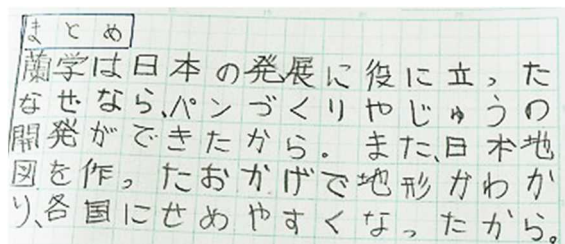
さらに、「よい影響」として、杉田玄白や伊能忠敬など、蘭学から学んだことを生かして解体新書や正確な日本地図を作ったことが挙げられました。一方、「悪い影響」として、日本固有の文化が少なくなってしまう、幕府を批判して世の中が乱れた、百姓一揆や打ちこわしが起き各地が混乱した、なども挙げられていきました。最後に

先生から、「蘭学は日本にとって良い影響を与えたのか、悪い影響を与えたのかについてまとめてみよう」と問われ、子どもたちはそれぞれの考えをノートに書きました。良い影響、悪い影響、どちらの考えもありました。さらに、最後まで「()い影響」と空欄にしてどちらにも断言できない子もいました。三枝先生自身は、どちらが正しいとか間違っているとか言いません。自分はどう思うのかを表現させています。

10日(火)の続きの授業では、課題は「蘭学は日本の発展につながったのでしょうか」でした。主には、前時の蘭学の「良



い影響」の方についてさらに掘り下げる授業内容でした。資料集等から蘭学がもたらした測量法や天文学等が伊能忠敬の作った正確な地図作りにつながっていったことや、新しい銃や大砲の作り方、使い方、兵法など入ってきたことが国の力をつけることになったことなどが分かりました。子どものまとめには、蘭学は日本の発展につながっていったという意見が圧倒的に多かったです。



さて、三枝先生のもう一つの工夫として、実物提示と環境づくりがあります。今は、6年生の教室の前に「反射炉」の耐火レンガの実物を市からお借りして置いてあります。また、廊下には、伊能忠敬が測量するときに正確な歩数と方位で地形を調べていたのを体験してもらうため、方角を変えて2箇所、伊能の歩幅70cmごとにテープが貼られています。こういうものを見たり体験したりして、当時の技術に思いを馳せる子どもも多いことでしょう。



この後の授業の展開は、子どもたちの中にもやもやとしていて追究意欲がだいぶ高まった「蘭学や海外の知識が日本の政治や社会にどのような影響を及ぼしたのか」という課題に主体的に取り組んでいくことでしょう。

以上のように、三枝先生は、「自分はどう考えるのか」を常に大切にしています。